

ナルフラフィン塩酸塩（レミッチ）の適正使用について

長崎腎病院

○中島さゆり、小嶺真耶、矢野未来、江藤りか、宮崎健一、李嘉明、原田孝司、船越哲

【目的】

ナルフラフィン塩酸塩（レミッチ）は、脳内オピオイドレセプター κ に作用する新しい作用機序の止痒薬である。しかしながら、本剤は非常に高価であることより医療経済的な面からもその効果を定期的に評価する必要がある。今回、当院でナルフラフィン内服中の患者の治療の妥当性を検証する。

【対象・方法】

当院で継続的にナルフラフィンを内服している患者 29 名（総患者数の 8.5%）に適切な IC を得た後、ナルフラフィンを 2 週間休薬し、休薬前・休薬後 3 日・1 週目・2 週目のかゆみ、不眠を聞き取り調査し、休薬 2 週間後に再開の希望の有無を確認した。また、中止可能であった患者の薬剤費について比較した。

【結果】

対象患者 29 名中 25 名がナルフラフィン休薬に同意し、2 週間後に 7 名が再開を希望し、7 名中 5 名において、掻痒のための不眠の軽減が得られた。中止可能であった患者の薬剤コストは内服薬で 55%削減可能であった。

【考察】

ナルフラフィン服用患者のうち、約 30%の患者で継続投与が必要であった。一定期間の休薬は薬剤継続の判定に有効であると考えられる。